

資料室


[HOME](#) | [資料室](#) | [労働組合](#) | [組織活動](#) | [労働組合をつくろう①](#) | [労働組合結成の精神](#)
[労働組合](#)[労働者福祉・共済](#)[一般教養](#)[組織活動](#)[組織運営と法律](#)[労働安全衛生](#)[経営対策活動](#)[教育・宣伝活動](#)[労働時間をめぐる諸問題](#)[教育活動](#)[選挙活動](#)[組合組織（公務員）](#)[教育カリキュラム](#)[▶ キーワード検索はこちら](#)

労働組合をつくろう① 労働組合結成の精神

自由で平等な「誰もが報われる社会を目指して」

自由主義的資本主義社会は、競争原理を基礎にした弱肉強食社会です。放置しておく、弱者や競争敗者は社会から退場を強いられ人間としての尊厳は踏みにじられます。

労働組合は、弱者である労働者自身が人間としての尊厳を守り、社会の構成員として権利と義務を遂行する人間らしい生活を求めて結成されてきました。自由・平等の民主主義社会のシステムを企業社会に適用し、労使対等の原則を確立し、労働を通して得られる成果を労使協議により理解と納得の上で分配する。このようにして、一人では弱い労働者が労働組合に結集し、会社（資本家・経営者）と対等に話合いができる体制を作りました。したがって、労働組合は会社（資本家・経営者）と対等関係に位置するもので、労働組合が会社に存在するという事は、その労働者（組合員）は労働組合を通して対等の関係を構築していることを意味しています。

こうして自由な社会で、弱い立場から、従属関係になりがちな労働者と資本家・経営者との関係を平等に保ち、その自由意思に基づき労使決定をしていくことになったのです。

労働組合を結成する場合、メリット論争で、単に「モノ取り主義的」な利益追求のみに目を向けがちですがそうではなく、働く労働者自身が人間として尊重される「心身の認知」を会社や社会に求める行為なのです。

このような本質的原点を労働者に自覚してもらうことが必要です。そうでないと、今会社で不自由していないから、不満がないから労働組合の必要を感じない、劣悪な労働条件でないし、……となって、メリット・デメリットの利益誘導型の労働組合結成論争へなってしまうのです。

同じ山に登るにしても、位置・立場・環境などの違いから、多様な登り方が出てきます。それと同じように労使という立場の違いによって、目標は同じでもそこに行きつく方法に違いが生じます。この違いを対等な関係で協議し調和を図る。労使関係という対等な人間関係によって、相互に尊重し合いながら違いを埋める、補完し合う、尚且つ協同の目標を構築する。こうして、会社という労使共通の組織（場）の発展を図るのです。

労働組合結成の狙いは、このように崇高なものなのです。

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

[>>一覧へ戻る](#)

